



令和2年8月26日発行 中等新報第70号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

3年生対象進路講話① ～ 中等生活のメリットは？ ～



後期課程に向けてのアドバイスを語る13期生の皆さん（左から櫻井さん、桐生さん、石塚さん）

8月25日（火）、再び13期生が後輩のために来校してくれました。今回は、後期課程への進級を7か月後に控えた3年生対象の講話（座談会形式）です。参加した13期生は、東琳加さん（新潟大学医学部医学科）、桐生楓基さん（新潟大学医学部医学科）、石塚萌絵さん（新潟大学歯学部歯学科）、櫻井友哉さん（東京大学文科二類）、佐藤太陽さん（京都大学理学部理学科）、井東はるかさん（新潟県立大学国際地域学科）の6人です。

以下に、私が聴いた講話の抜粋を紹介します（文中のIは石塚さん、Kは桐生さん、Sは櫻井さんです）。

- Q. 3年生の後半から高校の学習の先取りが始まります。後期課程へ進むに当たっての心構えを教えてください。**
- (K)・ボクは中等で出される課題を信じました。4年生になると、1週間分の課題がまとめて出されます。1週間の時間を計画的に使って、課題をすべてこなしました。「後でまとめてやろう」はうまくいきません。
 - (I)・朝テストも大事です。1週間前に範囲が示されますので、テストまでの時間を計画的に準備に当てます。大学受験のためには、結局やらなければならない勉強なのです。早めに取り組みと、後が楽。
 - (S)・後期課程の授業は、そのまま受験の内容なので、毎日の授業が大事だと思います。
- Q. 4年に進級するとすぐに文理選択があります。その際に気を付けることはありますか？**
- (K)・なりたい職業をまず考えて、そこから逆算して文理を考えました。
 - (I)・私は人と接するのが好きで、人の役に立てる職業を考え、医療に就きたいと思いました。それで理系を選んだのですが、数学が苦手で成績も悪く、担任の先生から随分心配されました。そのとき、「苦手科目を得意科目にしよう!」と決意しました。中等は、進路選択する際に、手厚い支援が得られます。ディスカッションしながら皆で考える機会もあります。
- Q. 効率よく学習するためには、どんな工夫がありますか？**
- (S)・授業中に、先生の口ぶり、板書などをよく観察してポイントがどこにあるか判断しました。
 - (K)・4年生になると、「模試ノート」を作ります。これは、模試で間違えた問題を書き出し、整理しておくノート。自分の穴が一目見て分かるようにまとめます。（口々に「これ大事」という声が上がると。）
 - (S)・1回間違えたところというのは、放っておくと同じところを何度も間違えるものだから…。

（次号へ続く）



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>